

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 27 年度第 2 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

- I. 日 時：平成 27 年 7 月 29 日(水) 18:00~20:00
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室
III. 参加者：玉田主査、伊藤委員、和田委員、金子委員、中西委員、本村委員、松田アドバイザー
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

1. 情報リテラシー教育ガイドラインの見直しについて

ガイドラインの更新について、ループリックや授業事例・展開例が委員から提案され以下のような議論がされた。

- ・ 情報リテラシーとして、卒業までの取組みとなる説明や図が必要ではないか。4年間の積み上げの概念図として、初年次からのスパイラル的な図で表現してはどうか。
- ・ 情報リテラシー教育により、分析、予測、検証して振り返りができることが、社会人基礎力としてのリテラシーではないか。
- ・ 課題を設定し、データを使って、仮設の設定、検証の準備、仮設の検討の流れが教育される必要があるのではないか。
- ・ データの特性から、問題発見、価値を引き出すこと、問題を解決するための手段としていきたい。到達目標Aでは問題解決の流れを意識させることになっている。
- ・ 課題と問題の用語の使い分けについて意見があった。課題には何とかしなくてはならない能動的なものが含まれているのではないか。現状の表記は一旦そのままとしている。
- ・ ループリックについて、レベル1は知識把握、レベル2は応用分析、レベル3は総合評価としている。
- ・ 情報について、順序立ててできるイメージだが、情報をどのように使って学修するかというところで工夫ができないか。例えば、基礎的な知識理解として、情報を認識、集め、分析するなど、情報が明示的に見えてくる必要があるのではないか。
- ・ 分野別情報活用能力の目標や例などの書き方を参考に、情報活用レベルでの記述にした方が良いのではないか。
- ・ 学修技法としてではなく、情報に関連したものである必要があるのではないか。
- ・ 新しい価値創造への取り組みについて4年間かけて育成することを大学によってそれぞれのレベルが選択できることが望ましいのではないか。
- ・ 例えば、あるテーマのワークショップで情報を使ってできる可視化や構想などが考えられないか。定性分析、定量分析など含めた形での授業展開例ではどうか。授業例などは2つのレベルで分けた提示ではどうか。キーワードとして、ビッグデータを含めてはどうか。
- ・ 授業例として、例えば、到達目標Cでは仮説検証部分の例、到達目標Bでは批判的に見る部分、到達目標Aでは到達度1・2について検討してはどうか。または、15回授業のイメージからそのうち1つ2つの授業の説明を提示してはどうか。

V. 今後の予定について

- ・ 次回は8月20日14時に開催し、検討を継続することにした。
- ・ ガイドラインのとりまとめは、ループリックや授業例について、担当に分けて資料を作成することも想定することにした。